

中部山岳国立公園南部地域における利用の高付加価値化に向けた 事業者対話(サウンディング調査)その2 結果概要

1. 趣旨

環境省では、インバウンド需要が急速に回復する中、国立公園の美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光を推進することとし、「宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上検討会」において、国立公園の利用の高付加価値化の方向性と、国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした利用拠点の面的な魅力向上に取り組む先端モデル事業の進め方を検討し、令和5年6月にその結果を「宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針」(以下、取組方針)として公表しました。

本取組方針に基づき、令和5年8月に、有識者等を含む専門委員会(非公開)の意見も踏まえつつ、環境省として政策的な観点から、「国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業」(以下、モデル事業)の対象として中部山岳国立公園南部地域(以下、本地域)を含む4つの国立公園を選定しました。

本地域では、モデル事業の選定を受けて、地方自治体や地域関係者とともに利用の高付加価値化に向けた基本構想(以下、基本構想)の検討を進めており、検討の参考とするため、本地域の8つの地区における滞在体験の魅力向上につながるアイデアや提案を広く聴取することを目的として、民間事業者の皆様との対話(サウンディング調査)を実施しましたので、その結果の概要を公表します。

2. 調査概要

(1)実施スケジュール

- 公示(実施要領の公表) : 令和6年7月10日(水)
- サウンディング事前説明会: 令和6年7月26日(金)
- サウンディング申込期間 : 令和6年7月11日(木)～8月13日(火)
- サウンディングの実施 : 令和6年8月21日(水)、23日(金)

(2)参加事業者(グループ)数

- 宿泊事業者 : 6者
- 宿泊事業者以外 : 1者
- 合計 : 7者

(3)サウンディングの項目

- ① 各地区における「宿舎事業を中心とした高付加価値な滞在体験」につながる宿泊事業又は各種事業※のアイデア、意見・提案
【対象】乗鞍岳、乗鞍高原、白骨温泉、さわんど温泉
- ② その他本地域の利用の高付加価値化につながる各種事業※についてのアイデア、意見・提案
【対象】全地区
※ガイド・アクティビティ、飲食サービス、広報・情報発信、物販等の事業

3. 参加事業者との対話で得られた主な意見・提案

(1) 宿舎事業を中心とした高付加価値な滞在体験につながる各種事業のアイデア、意見・提案

【乗鞍岳】

- ・乗鞍岳は、登山のため、もしくはご来光を目的とした利用者が多い。高山特有のお花畑、野草があること、ヒルクライムの聖地でもあることが乗鞍岳の魅力である。バスで容易にアクセスできるため、これからも誰でも訪れることができる点は大事にしたい。
- ・乗鞍岳で事業を行うに当たって、自家発電機の更新等のインフラ維持にコストがかかる。インフラを整えば、もう少し高付加価値化のための取組ができると感じている。
- ・現状は宿泊者への対応で精一杯であり、さらなるサービスを提供する余裕がない。また、スタッフも高齢化しているため、インバウンドからの問合せなどへの対応が難しい。

【乗鞍高原】

① 宿泊事業のアイデア、意見・提案

- ・乗鞍高原は自然が豊かで、自然と共生してきた文化がある。自然を生かし、文化を掘り起こして、これまで日本にはなかった宿泊施設を考えるべき。
- ・これからの顧客層であるZ世代は地域との関わりを求める傾向がある。そのため、今後の宿泊施設のあり方として、Z世代が求める地域づくりの支援という目的が根底に必要である。
- ・宿泊とガイドの利用をセットとした宿泊体験の提供をベースとして考える必要がある。
- ・人の手が入ることで美しい景観が残ってきたことを、利用者にストーリーとして伝えることが重要。宿舎施設も、地域の成り立ちを感じてもらうため、景観保全のために伐採した地域材の活用や水の循環利用などを取り入れることが望ましい。
- ・オフグリッド型ホテルにゆっくり滞在するという観点では、泊食分離よりもホテルに食材を運んで調理する形も考えられる。
- ・地域内の既存の小規模な宿泊施設を活かし、分散型ホテルの導入が可能ではないか。
- ・乗鞍高原においては、富裕層ターゲットの宿泊施設を誘致することが地域の高付加価値につながると考える。既存の宿泊施設の顧客層とは競合せず、乗鞍高原のみならず、他地区にも経済効果の裨益が期待される。

② その他事業のアイデア、意見・提案

- ・乗鞍高原はアクティビティがしやすく自然景観に優れている。紅葉や新緑は上高地より優れているといってもよい。また、上高地と違って通年営業できるエリアでもある。
- ・地域住民の高齢化に伴い、買い物や移動等が難しくなっているため、今後の生活基盤確保に向けて地域住民の実際の利用状況を詳細に調べる必要があるのではないか。
- ・乗鞍高原には、体験・アクティビティ事業の先駆者がいるため、一元化した予約窓口を設置してはどうか。
- ・将来的に、例えば乗鞍観光センターで、宿泊施設のチェックインを行った後、地区内の移動に自動運転を活用すると、利用者の利便性も高まり、地域の人手不足にも対応が可能。

【さわんど温泉】

① 宿泊事業のアイデア、意見・提案

- ・上高地に通じる釜トンネルの通行時間は限られているため、さわんど温泉にステーションホテルのような機能は必要。
- ・さわんど温泉に基幹となるホテルがあれば、上高地、山小屋への宿泊、駐車場等の予約など、地域一帯のデジタル化が進み、高付加価値化につながる。
- ・ナショナルパークゲートに周辺ホテルのチェックイン機能、荷物の配送事業をホテル業とセットで行えるとよい。
- ・非日常に入る体感を与えるためにゲートホテルがあることで、さわんど温泉に宿泊し、朝一番の上高地や乗鞍岳に入る体験を提供することが可能。ただし、事業を成立させるためには、年間を通じた宿泊施設の稼働が必要であり、そのためには、上高地の冬季利用、乗鞍高原や平湯温泉方面のツアー提供など新たな宿泊の需要創出が必要。

② その他事業のアイデア、意見・提案

- ・さわんど温泉には、周辺地区の従業員用の駐車場があるとよい。
- ・富裕層や車の愛好家をターゲットとした屋根付き駐車場の需要も高い。
- ・繁忙期の混雑緩和策としては、総量規制ではなく、駐車料金の値上げやダイナミックプライシングの導入によって解決することが望ましい。

【4地区(乗鞍岳・乗鞍高原・白骨温泉・さわんど温泉)におけるその他事業のアイデア、意見・提案】

- ・地域の生活拠点サービスとして、物流拠点の設置が考えられる。民間事業者だけでなく、行政の協力や地元住民の参画によって実現することが望ましい。
- ・費用面での課題も含めお客様のニーズは検証中ではあるが、ビジネスジェットとラグジュアリータクシーの組合せによって、高付加価値でシームレスな移動を提供することができる。
- ・多言語対応の情報発信や、旅行代理店と連携したツアー等の新規開拓は宿泊施設単体ではなく、地域との連携により、面的なプロモーションを行うことが望ましい。

(2)その他本地域の利用の高付加価値化につながる各種事業について

【上高地】

- ・マイカー規制によって形成された特別な空間は上高地の価値であることから、業務用車両も含めたマイカー規制の管理・運営の徹底が必要。そのため配送センターのような機能を作り、運行時間制限のルール化などが必要。
- ・バスターミナルから河童橋、ウエストーン碑周辺の歩車分離を徹底した方がよい。またバスターミナルから河童橋の梓川寄りのコースは歩行者専用にしてはどうか。
- ・高付加価値の前提として、国立公園としての設えや演出も重要である、例えば、釜トンネルは上高地の玄関口としてのシンボリックな演出を施す、釜トンネルの通行整理の警備員の制服もアメリカのナショナルパークのガイド感を出す等の刷新が必要。
- ・ネイチャーガイドによる特別感のあるツアーを実施できるとよい。認定ガイドのみが利用できる特別散策路のようなエリアがあるとよい。

- ・宿泊施設等の高付加価値化にあたって法規制が障壁となっている側面があることから、建築物の屋根勾配基準等の見直しが必要である。
- ・修復や更新がされていない行政管理のベンチやテラス、歩道、道路等の維持管理は、民間事業者への委託等の民間活力の導入によって、スピード感を持って対応することが望ましい。
- ・河童橋の夜の景観を楽しむライトアップは、高付加価値化に向けた選択肢の一つとして、まずは試行・検証から始めることが望ましい。
- ・繁忙期は道路渋滞を改善するため、ライドシェアの導入を検討した方が良い。

【山岳エリア】

- ・山小屋には登山しなければ到達することができないが、そのこと自体に価値がある。また、日本の山小屋では、どんな人も公平に扱われるということも価値である。
- ・そのため、一部利用者への高付加価値なサービスの提供については、このような山小屋の価値を損なわないように留意すべき。
- ・山小屋においても、個室対応や入浴施設等の整備などのサービス提供が可能な場合もあるが、各山小屋の立地や季節といった環境に大きく左右される。そのため、山小屋が提供できるサービスはすべての山小屋で同等ではなく、立地環境に左右されることを、利用者にも周知していく必要がある。
- ・山岳域では、敷地面積が限られるため、建物内のスペースが十分でなく、従業員スペースの確保が課題である。また、登山道の修復、遭難救助にも山小屋の従業員が対応しており、従業員の確保と技術の継承も課題である。
- ・今後は登山口での登山情報の発信が必要である。国内の登山人口が減る中で、海外からの登山客への情報提供が重要であり、特に安全な登山を行うための情報発信は急務である。例えば、事故防止のため、登山口でのリアルタイムの情報発信（ライブカメラ設置等）が考えられる。
- ・海外からの登山客受け入れのためには、英語対応可能なガイドと登山者とのマッチングも必要である。
- ・例えば、エベレストでは、エベレスト自体の登山だけではなく、エベレスト街道にもトレッキングやロープウェイ等の様々な体験が用意されている。中部山岳国立公園南部地域においても、同様な体験を提供することは可能と考える。単に登山だけを商品にするのではなく、周辺でのトレッキングや観光をする中で、登山へのきっかけを提供するような情報発信ができると良い。

【新穂高温泉】

- ・新穂高温泉の価値・魅力は、3,000m級の山岳景観、原生的自然と季節感、自然の恵みと文化、ロープウェイによるアクセス等である。
- ・ロープウェイを中心にエリアの特性を生かし、本物の価値に基づく、感動と学びを柱とした高付加価値な滞在体験の提供が重要。
- ・ロープウェイ各駅の周辺の資源を活かした体験をガイド事業者との連携によりエリア全体で提供することが重要。

【その他の意見など】

- ・民家には、かつて日本人が持っていたおもてなしの心が間取りに表れている。長い歴史の間に積み上げてきた、自然のいなし方も家具や構造に表れている。地域の風土を表すものとして、民家の保全と活用が重要。
- ・昔ながらの民家を残すということではなく、機能、役割、精神性、歴史を活かして再生させ、滞在体験の場として提供することが価値になる。

4. 今後の予定

本地域では、これまでの地元自治体や地域関係者との意見交換、事業者対話の結果を踏まえ、令和6年10月に乗鞍岳・乗鞍高原・白骨温泉・さわんど温泉の4地区を一体的にモデル事業の利用拠点に選定し、「中部山岳国立公園南部地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想」について中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会において合意を得ました。

今後は、選定された4地区の利用拠点マスタープランづくりを進めることとしており、今回いただいた提案・アイデア等を参考に、引き続き、宿泊事業の誘致や地区内のハード・ソフト両面での環境整備等、利用拠点の面的魅力向上に向けて必要な事業について、外部民間事業者の望ましい参画のあり方や地域との関係性も含めて、さらに検討を進めていく予定です。

また、このマスタープランづくりの過程において、事業者対話を継続的に実施する予定です。